

◆南昌荘を皆さんの交流の場に



いわて生協 「南昌荘」担当
牧野 典子氏

震災で岩手県沿岸部は大きな被害を受けました。内陸部は直接の被害は少なかったため、ご家族や大切なものを失った被災者の方々に何かしたいと思っています。しかし、さまざまな事情で実際に現地に足を運ぶことができないのも事実です。そこで、南昌荘でチャリティーコンサートを開き、その収益を寄付して支援活動に役立てていただこうと考えました。

盛岡市の保存建造物・保護庭園である南昌荘は、いわて生協（旧・盛岡市民生協）が組合員・市民の皆さんの共有財産として1987年に購入したものです。

コンサートの前日（11月10日）に、開館以来の来場者が20万人を超えました。

南昌荘のような歴史的建造物を日々の生活に役立てていただくことも大切だと思います。

これからも交流の場として使っていただけよう頑張ります。

発災から8カ月、岩手・宮城でコンサート開催

いわて生協

いわて生協は、11月11日に盛岡市の南昌荘で「彩りの庭園に流れる二胡の調べ がんばろう！いわて チャリティーコンサート」を開催しました。このコンサートは、来場者が、被災地への復興支援に参加し、かつ自身も癒される企画として開催されたものです。

矢巾町在住の二胡奏者・陳 為（チンイ）氏を迎え、昼・夜の二部制で行なわれました。収益の一部は東日本大震災支援募金に寄付されます。来場者たちは、昔懐かしい建物と、庭園の景色を味わいながら、コンサートに耳を傾けていました。

組合員の工藤和子さんは、「今日のコンサートはチャリティーだと聞いて、友達を誘って参加しました。震災のあと、私も気分がふさがちでしたが、全国からたくさんの方が被災地を訪れてボランティアとして働いている姿を見て、元気づけられました」と話していました。



二胡の音色と庭園の風景に心が癒される。



美しい南昌荘の外観。



開演前には、全員で黙とうを捧げた。



ホールに二胡の音色が響き渡る。

みやぎ生協

みやぎ生協は、11月11日に仙台市の東北大学百周年記念会館川内菽ホールで「チェン ミン LIVE」を開催しました。みやぎ生協では東日本大震災以降、毎月11日に復興支援のためのさまざまなイベントを県内各地で行なっています。

今回は二胡奏者のチェン ミン氏のライブが行なわれ、全壊・半壊の罹災証明書を持参すると無料で鑑賞できました。また、沿岸部に住んでいる方への無料送迎バスも運行されました。

仙南ボランティアセンターの森浩子さんは「今後の不安から仮設住宅に閉じこもってしまったり、心や体に不調をきたしたりという人も増えてきています。今回のライブのような、さまざまなイベントが、多くの方が立ち直るきっかけになるとよいですね」と話していました。